

平成31年 新春の所感

平成31年を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

本県は、東日本大震災とそれに伴う東京電力福島原子力発電所の事故から、まもなく8年目を迎えようとしております。

一昨年春には、4町村で避難指示が解除され、昨年は、住民や地域で働く方々にとって必要不可欠な病院がオープンするなど被災地域の居住環境の整備が進んでおりますが、未だに住み慣れた地域を離れ県内外で避難生活を送られている方々が4万人を超える状況にあり、この方々が、少しでも早く平穏な生活を取り戻すことが出来るよう強く願うものであります。

さて、当協会は、公益社団法人に移行して4年が経過いたしました。移行以来、従前にも増して様々な公益活動に取り組んでおり、県など関係団体の提案や助言を頂きながら、公共の利益の維持・向上を第一とし、ビルメンテナンス業務の社会的な責務を果たすため、各種の研修会や講習会の開催、障がい者の方々の就労支援のための事業など様々な活動を行ってまいりました。

本年も、公益社団法人全国ビルメンテナンス協会と連携しながら、清掃作業従事者研修会や研修指導者講習会などの各種の研修会・講習会など、協会としてビルメンテナンス業務の品質を確保するための人材育成事業を行うとともに、清掃の指導に加えて「挨拶の仕方など、社会人として働くことの意識を高めることができる。」との高い評価をいただいております特別支援学校の技術講習会へ、協会の関係者がビルクリーニングの指導講師として出向く技術指導を積極的に行ってまいります。

最後になりますが、本年は、労働力の不足による人件費の高騰、入札価格の低迷などに加え、ビルクリーニング業も対象となっている外国人労働者の受け入れ拡大のため新たな在留資格を設ける出入国管理法の改正など、ビルメンテナンス業を取り巻く環境が大きく変化する年となりますが、皆様にとりまして、この1年が良い年になりますよう祈念いたしまして、新年のあいさつといたします。

平成31年1月1日

公益社団法人福島県ビルメンテナンス協会
会長 佐藤 日出一